

# 山口市の地域型子育て支援施設における講習会・イベントの運営体制

# THE MANAGEMENT FORM OF LECTURE AND EVENT OF THE CHILDCARE SUPPORT FACILITY IN YAMAGUCHI CITY

伊藤優里 \*1 山本幸子 \*2  
 中園真人 \*3

Yuri ITO \*1 Sachiko YAMAMOTO \*2  
 Mahito NAKAZONO \*3

キーワード：  
 子育て支援, 講習会, イベント, 地域組織, 運営体制

Keywords:  
 Childcare support, Lecture, Event, Community-based organization, Management form

This paper aims to clarify characteristics of management form in lecture and event of the childcare facilities managed by community organization. In case of the facility reused wooden house, event is held in the base, lecture is held in community center because that has a cookhouse and lecture hall. A case that there are more than 30 staff members composed by community organizations related to child-rearing, it's possible to ensure staffs from the management organization in both lecture and event. In the case less than 20 staff members, collaboration neighboring with specialized skills is enabled to hold variety lecture contents.

## 1. 序論

少子化対策の一環として親子の交流や育児相談等の場として設置が進められている子育て支援拠点（以下拠点）は、1993年の「保育所地域子育てモデル事業（後の地域子育て支援センター事業）」創設から、2007年に「つどいの広場事業（2002年-）」と共に「地域子育て支援拠点事業」へと再編され、2015年4月の「子ども・子育て新支援制度」施行後には、子育て支援が社会保障の1つとして位置づけられた。

この拠点の基本事業として①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、②子育て等に関する相談・援助の実施、③地域の子育て関連情報の提供、④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施の4つがあり、相互に交流を図る常設の場を設けて実施することが示されている<sup>1)</sup>。従事者は「子育て支援に意欲があり、子育てに関する知識・経験を有する者2名以上」と定められており、資格や専門性は求められていない。実施場所は、保育所の他、公共施設の空きスペースや民家等の既存ストックの活用も促されている。

基本事業のうち④について、塩崎の研究<sup>1)</sup>では、講習会の目的には①具体的な育児の方法や技術を伝えるもの、②母親自身の成長や自信回復の支援、③親同士の交流の場となることの3つがあると示されており、この目的に即した講習会の実施には、常設の拠点運営スタッフに加え、講師となる専門性を有す主体との連携・協力が必要である。また、既存ストック活用型の施設では、建築形態や改修内容により空間面積や設備機能が異なるため、講習会の内容が制限される可能性も考えられる。

関連既往研究として、常設拠点の日常における他機関との連携体制に関する研究<sup>2)3)</sup>や、実際に行われた講習会の1事例を基に企画

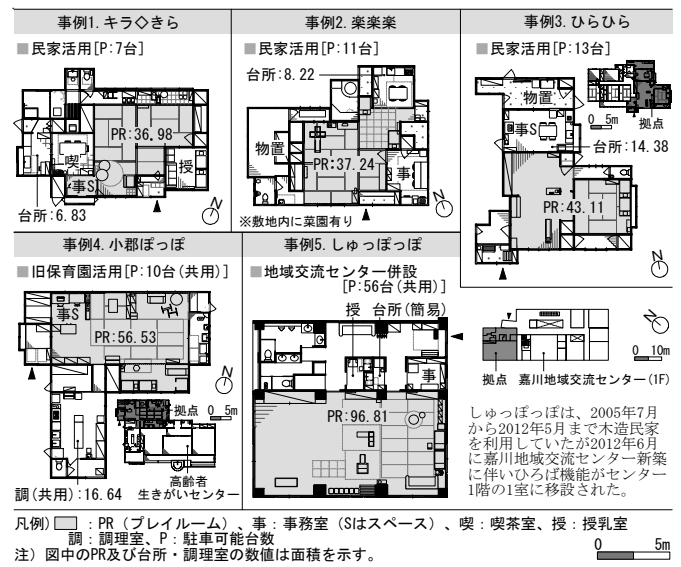


図1 調査対象施設平面図

から講師の選定、実施内容等について一連の流れを整理した研究<sup>4)</sup>はみられるものの、複数の事例を対象に講習会の運営体制の比較分析を行った研究は少なく、既存ストック活用型施設の講習会時の空間・設備機能に着目した研究も見られない。

このような講習会・イベントの運営や空間機能の課題に対し、山口県山口市では民家や旧保育園といった既存ストックを活用し、自治会を単位とした地域組織を実施主体とする「地域型」の拠点を開設<sup>5)</sup>するとともに、講習会・イベント実施時には拠点以外の地域施

<sup>1)</sup> 山口大学大学院理工学研究科 博士後期課程・修士（工学）  
 (〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1)  
<sup>2)</sup> 筑波大学システム情報系 助教・博士（工学）  
<sup>3)</sup> 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

<sup>4)</sup> Doctoral Course, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., M. Eng.  
<sup>5)</sup> Assistant Prof., Faculty of Eng., Info. and Systems, Univ. of Tsukuba, Dr. Eng.  
<sup>6)</sup> Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng.

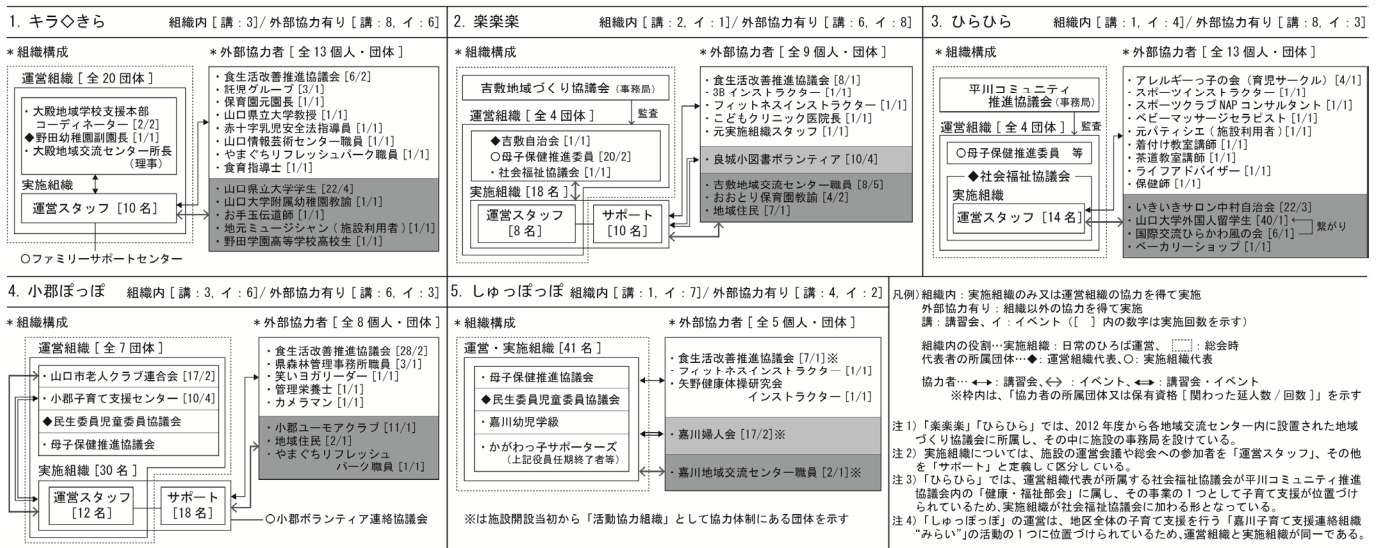


図2 組織構成及び講習会・イベント時の運営体制（2013年度）

設や農地等を活用することで拠点に不足する空間・設備機能を補い、地域内の多様な人材の協力を得ることで専門性を補完する運営体制を構築しており、地域の人材・資源を活用した講習会運営方式として位置づけられる。

そこで本研究では、山口県山口市の「地域型」5施設を対象に、建物概要及び組織構成を整理した上で、講習会・イベント時の外部協力者の所属・専門性と実施場所・内容の関連分析により、「地域型」の講習会・イベント運営体制の特徴を明らかにすることを目的とする。なお本論では、講話・調理・食育、運動、工作等の知識や技術を習得するものを「講習会」、伝承文化・行事、季節行事、農業体験等の親子と一緒に楽しみ、交流を図るものを「イベント」と定義して分析を行う。

## 2. 調査概要

### 2.1 調査対象施設

調査対象施設は、2011年度までに開設された「地域型」6施設のうちの、建物の平面図や開設経緯等の基本データの収集が完了している「大殿子育てひろば キラ◇きら(以下 K)」「吉敷つどいの広場 楽楽楽(以下 R)」「平川子育てつどいの広場 ひらひら(以下 H)」「子育てつどいの広場 小郡ぼっぼ(以下 O)」「嘉川子ども館 しゅっぼ(以下 S)」の5施設である。拠点となる施設平面図を図1に示す。建物は木造民家(K・R・H)、旧保育園の一室(O)、新設の地域交流センターの一室(S)を利用している<sup>注2)</sup>。拠点内で親子が過ごすプレイルームの面積は、民家活用型の3施設では40㎡前後、Oでは約56㎡、Sでは約96㎡と建築形態によって差がある。また、調理設備については民家活用型と旧保育園活用型では10㎡前後の既存の台所・調理室を有し、K以外ではガスコンロが設置されている。地域交流センター併設のSは施設内に調理室、拠点内に簡易的な台所を有している。駐車場は、Sは地域交流センターと併設で56台、他は10台前後を有している。

### 2.2 調査方法

調査は、施設代表者に対して運営体制等に関するヒアリング調査及び講習会・イベント時の使われ方及びアンケート調査を実施した。

使われ方調査は、事前に利用施設・農地の図面収集及び実測調査により図面を作成し、講習会・イベント時に参加者(親子)、施設スタッフ及び外部協力者を対象に行動観察を行い、平面図に滞在場所・動線・行為内容の記録及びデジタルカメラによる撮影を行った。また施設スタッフ・外部協力者には運営体制、職種、施設に関わるようになったきっかけ等に関して、参加者には親子の年齢や交通手段、参加の目的等に関するアンケート調査を実施した<sup>注3)</sup>。調査期間は、2013年4月から2014年3月である。

## 3. 地域型における講習会・イベントの特徴

第一に運営組織・実施組織の構成を整理した上で、講習会・イベント時の外部協力者の所属・専門性を明らかにする(図2)。第二に運営スタッフ・参加者の人数と実施場所に着目し、比較分析により各施設の運営体制の特徴を明らかにする。

### 3.1 施設の組織構成及び講習会・イベント時の協力関係

施設Kは、母子保健推進委員(以下母推)を中心に、幼稚園から中学校までの校長等の他、大殿地区内計20団体の役員により運営組織が設立されている。実施組織は10名で、母推と児童民生委員を中心に、地域内で保育士資格保有者等に声掛けをして集められた<sup>注4)</sup>。2013年度に実施された講習会・イベントは、運営組織から2団体、外部から13個人・団体の協力を得ており、食育指導士や保育園元園長、大学教授等市内の教育関係者をはじめ専門職の協力が多いため特徴である。

施設Rでは、運営組織が自治会、母推、社会福祉協議会(以下社協)、民生委員・児童委員の4団体で構成され、2011年より地域交流センター内に設立された吉敷地域づくり協議会に事務局が移行した。実施組織は、実施組織代表者である母推所属者と組織立ち上げに関わっていた子育て経験者が中心で、利用者の中から未就園児の子ども連れで勤務するスタッフ(ママスタッフ)が加わり、計18名で構成されている。講習会・イベントは、運営組織から3団体、外部から9個人・団体の協力を得ており、特に事務局のある吉敷地域交流センター職員からの協力が計5回、拠点施設に隣接する良城小図書ボランティアからの協力が計4回と、利用施設近隣の地域住

表1 運営体制による分類(Ward法)

施設記号	講習会						イベント						樹形図 <sup>注)</sup>			
	運営スタッフ		場所別		参加者	平均	運営スタッフ		場所別		参加者	平均				
	平均人数	回数	実施回数	回数			平均人数	回数	実施回数	回数						
	組織内	外部	合計	拠点	その他	合計	組織内	外部	合計	拠点	その他	合計				
K	4.5	1.4	5.9	4	7	11	14.4	4.5	4.5	9.0	4	2	6	27.3	講習会他施設利用型	
R	5.5	1.6	7.1	2	6	8	20.3	7.0	3.1	10.1	7	2	9	25.9		
O	4.0	3.8	7.8	7	2	9	15.0	10.4	1.6	12.0	6	3	9	67.0		組織内運営型
S	7.0	2.4	9.4	5	0	5	25.0	7.9	1.8	9.7	6	3	9	27.2		
H	3.2	1.4	4.6	6	3	9	18.4	3.6	9.9	13.5	1	6	7	24.4		イベント外部協力型

凡例[施設記号] K:キラ◇きら, R:楽楽楽, O:小郡ぼっぼ, S:しゅっぼ, H:ひらひら  
 [運営スタッフ] 組織内:実施組織及び運営組織スタッフ、外部:組織外からの協力者  
 [実施場所] 拠点:拠点又は併設施設、その他:拠点・併設施設以外の施設・農地等  
 注)樹形図は、表中の網掛け部分の数値によりクラスター分析した結果を示す。

民の協力を得ている点が特徴である。

施設Hでは、運営組織にRと同様4団体を含み、社協の取組みの一つにひろば運営を位置づけ、2011年から平川コミュニティ推進協議会に事務局が置かれている。実施組織は、母推である代表者の知人や地域内の託児グループメンバーへの声掛けにより集められ、14名で構成されている。講習会・イベントは、運営組織からの協力はなく、外部から13名の協力を得ており、講習会では地域のスポーツクラブや着付け教室講師等の他、元パティシエの施設利用者等、地域の講師やインストラクター等の多様な人材が参加している点が特徴である。イベントでは自治会と地域団体・大学留学生からの計5回・約70名の協力が得られている。

施設Oの運営組織は小郡子育て支援センターを含む全7団体で構成されている。運営組織代表者は民生委員、実施組織代表者は組織外の小郡ボランティア連絡協議会に所属し、実施組織は運営・実施組織代表者の知人や、小郡子育て支援センター利用者が立ち上げた育児サークルメンバー(ママスタッフ)により計30名で構成されている。講習会・イベントは、運営組織から2団体、外部から8個人・団体の協力を得ており、講習会では笑いヨガリーダーやカメラマンといった特殊な業種・資格を持つ人材が参加している。イベントでは、小郡子育て支援センターが4回・延10名、山口老人クラブ連合会が2回・延17名と運営組織所属団体から複数回協力を得ているのが特徴である。

施設Sは「地域型」として最初に開設された施設で、嘉川地区の母推協議会・幼児学級・民生委員児童委員協議会の3団体で運営組織「子育て支援連絡組織“みらい”」が結成された。他施設と異なり運営組織と実施組織が同一主体で、2012年から「かがわっ子サポーターズ」が運営組織に組み込まれ、地域団体所属者以外にも多様な地域人材が施設運営に参加することを可能とした。開設当初から地域内の老人クラブや青少年健全育成協議会等計18団体が「活動協力組織」として位置づけられ、必要に応じて施設の活動をサポートする体制が構築されている。そのため、講習会・イベントは組織内と活動協力組織を中心に構成されている点が特徴で、それ以外の外部協力者は2団体に留まる。

### 3.2 運営体制の特徴と分類

各施設の運営スタッフ・参加者の1回あたり平均人数と実施場所を、講習会・イベント時に区別して整理したものを表1に示す。5施設に共通して運営スタッフ・参加者の人数は講習会よりイベントの方が多く、参加者<sup>注5)</sup>は講習会が20名前後、イベントはOを除き

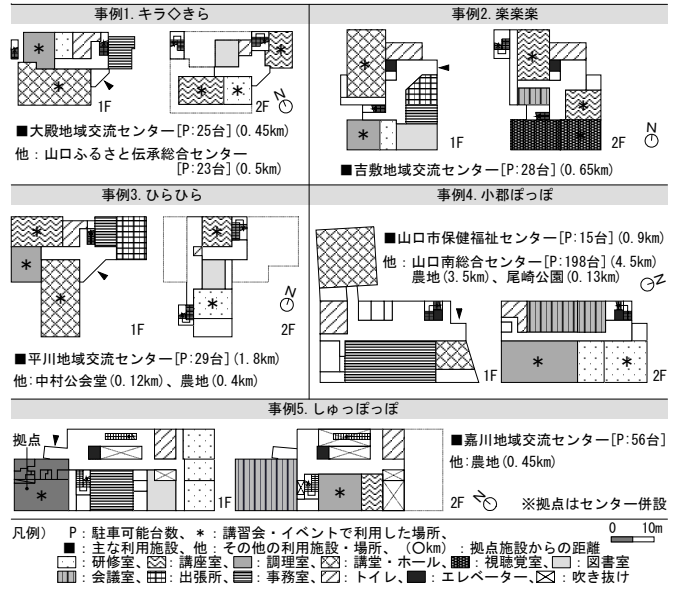


図3 拠点以外の利用施設平面図

25名前後である。

運営スタッフの組織内又は外部協力者の構成・人数及び実施場所は施設により違いが見られたため、講習会・イベント毎の運営スタッフ人数及び場所別実施回数の指標を用いてクラスター分析(Ward法)を行なった。その結果、表1右樹形図に示すとおり3タイプに分類された。まずK・Rは民家を活用した実施組織が20名以下の施設が属す。実施場所は、講習会は拠点以外の施設、イベントは拠点の利用が多い。運営スタッフは、組織内からは講習会・イベント共に5名前後確保し、外部からは講習会に1~2名、イベント時に3~4名とイベントの方が多。以上の特徴より「講習会他施設利用型」と称す。

次にO・Sは旧保育園又は地域交流センターに併設された実施組織が30名以上の施設が属す。実施場所は、講習会・イベント共に併設施設を含み拠点の利用が多い。運営スタッフは、講習会に外部から2~3名の協力を得ているものの、基本的には組織内で確保しており、特にSは組織内運営スタッフが多く、「活動協力組織」を有す運営体制の特徴が現れている。以上より「組織内運営型」と称す。

HはK・Rと同様に民家を活用した実施組織が20名以下の施設であるが、実施場所は、講習会は拠点利用、イベントは拠点以外の施設等の利用が多く、「講習会他施設利用型」の実施場所の傾向と異なる。運営スタッフは、組織内からは講習会・イベント共に3名程度と「講習会他施設利用型」とほとんど差はみられないが、イベントの外部協力者が約10名と多い点が異なる。以上より「イベント外部協力型」と称す。

以上より、運営体制(運営スタッフの構成・人数と実施場所)は、民家活用型と旧保育園・地域交流センター施設併設型の建築形態及び実施組織の人数により差異が認められる。

### 4. 講習会・イベントの実施場所及び運営時の特徴

講習会・イベントでは、拠点以外の地域施設等の利用が見られたため、第一に利用施設の空間構成・設備機能と講習会・イベント内容の関連分析を行い、第二に事例分析を通して実施場所と運営時の



表2 講習会・イベントの内容別実施場所 (2013年度)

施設記号	講習会					イベント					講習会・イベント合計		
	講話	調理・食育	運動	工作	その他	小計	伝承文化・行事	農業体験	季節行事	その他	小計	講話	その他
K	4	1	2	1	3	11	1	1	2	1	5	4	2
R	1	1	1	2	1	6	1	1	1	1	4	7	2
O	1	1	2	1	1	6	2	3	(1)	(1)	1	3	3
S		(1)	2	1	1	4	(1)	(3)			5	(3)	(3)
H	2	1	1	1	2	7	1	(4)	1	1	2	7	5
小計	4	6	2	6	4	22	9	3	1	8	20	39	25
合計	10	9	8	7	8	42	13	9	7	11	40	82	

凡例【施設記号】K:キラ○きら、R:楽楽楽、O:小郡ほっぼ、S:しゅっほっぼ、H:ひらひら  
 【実施場所】拠:拠点施設(○内):併設施設、地:地域施設(○内):農地・公園等  
 注1)講習会の「その他」には、ベビーマッサージ(O:拠、H:地1)、浴衣の着付け(S:拠1、H:拠1)を含む。  
 注2)イベントの「その他」には、絵本の読み聞かせ(R:拠4)、運動会(R:地1、O:地1)、施設開設記念行事(K:拠1、O:拠1)を含む。

特徴を明らかにする。

4.1 拠点以外の利用場所

拠点以外の利用施設平面図を図3に示す。主な利用施設は拠点から2km以内に位置する地域交流センター(K・R・H・S)及び保健福祉センター(O)の調理室や講堂、研修室等が利用されている。地域交流センターを利用している4施設について、Kはセンター所長が運営組織の理事で、毎年総会の開催場所となっていること、R・Hはここに事務局が置かれ且つHではセンタースタッフが実施組織に加わっていること、Sはセンター内に拠点が併設されていることから、実施組織とセンタースタッフ間の連携が図りやすいためと推察される。またOの保健福祉センターも運営組織に含まれている母推の繋がりがから利用されており、5施設とも拠点と地域施設間の人的ネットワークが構築されている。

その他の利用施設も拠点から1km以内と比較的近い場所に立地している。駐車場は15台以上が駐車可能で、Sを除き拠点よりも2~8台分多く確保されている。またK・R以外の施設では、拠点から0.4~3.5kmの場所に所有している農地や地域内の公園等の利用がみられる。

4.2 実施場所と講習会・イベントの内容

講習会とイベントの内容を区分し、実施場所との関係を表2に整理する。全体として講習会42回、イベント40回と同程度で、講習会は「講話」「調理・食育」「運動」「工作」「その他」に区分され、「講話」が最も多いが大差はない。イベントは「伝承文化・行事」「農業体験」「季節行事」「その他」に区分され、「伝承文化・行事」が13回と最も多い。

運営体制・実施場所の類型別に内容との関係を見ると、「講習会他施設利用型」(K・R)は、講習会の内容は「講話」「調理・食育」「運動」といった調理設備を必要とするものや動的活動を行う場合に拠点以外の地域施設を活用する場合が多く、Kでは「講話」が4回と特に多く実施されていた。一方「工作」やイベントでは拠点での実施が多い。

「組織内運営型」(O・S)は、Oの「調理・食育」のみ地域施設での実施で、その他は拠点又は併設施設が利用されていた。イベントでは「伝承文化・行事」が共に5回と最も多く、「農業体験」や「季節行事」も農地等を活用して実施されていた。

「イベント外部協力型」(H)は、講習会の「講話」「運動」も拠点で実施されており、「調理・食育」については拠点と地域施設双方の利用がみられた。イベントでは農地が拠点から0.4kmと徒歩圏内にあることから(図3-事例3)、「農業体験」の実施回数も4回と最も多い。屋内利用では、講習会・イベント共に拠点での実施が多い。

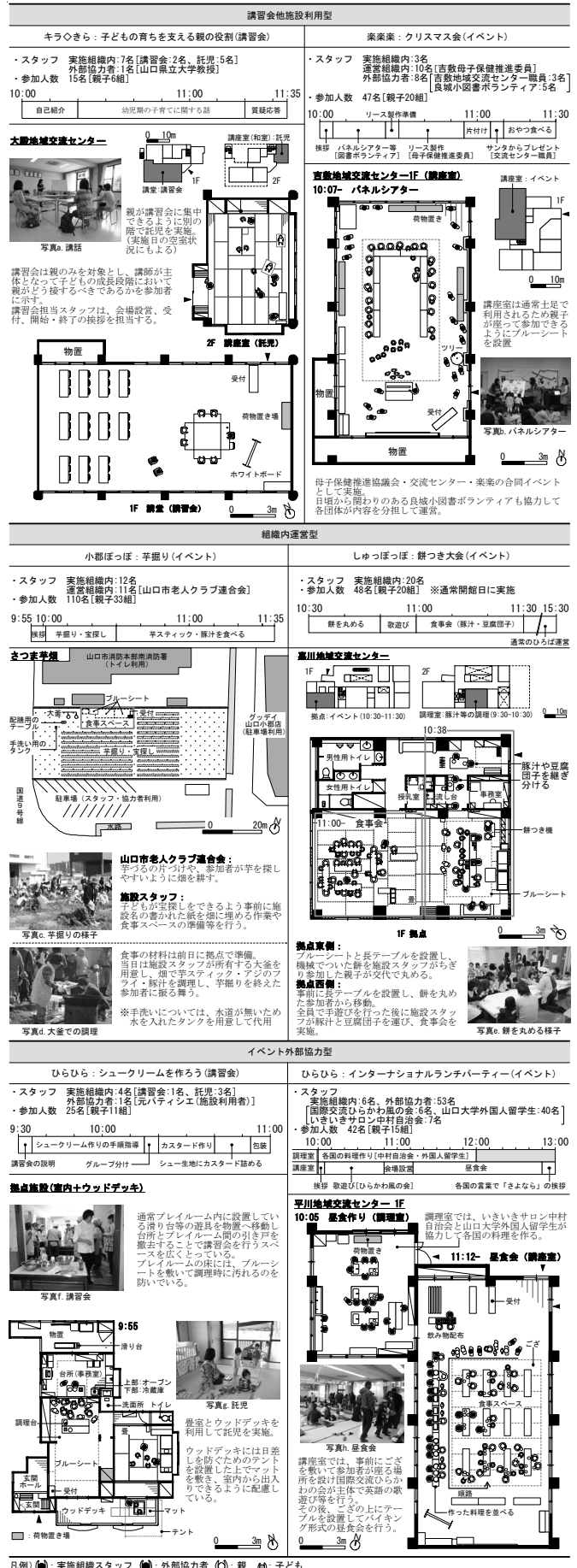


図4 講習会・イベント時の運営

### 4.3 類型別の事例分析

以上の運営体制及び実施場所の特徴を踏まえ、類型別に事例を選定し、スタッフの人数や行動等運営方法に着目して分析を行う。

#### 1) 講習会他施設利用型

施設 K は組織内に教育関係者を多く有し、実施組織内にも保育士が多いことから、親のスキルアップを目的に教育の専門家を講師とした講習会が多く、そのうち最も実施回数の多かった「講話」の事例を選定する（図 4-左上）。この講習会は親のみを対象としているため、別室で託児を行うために大殿地域交流センターが利用された。講師には他の子育て支援施設からの紹介により山口県立大学教授 1 名に協力を依頼し、子どもの成長段階に応じた親の接し方についての講義が行われた（写真 a）。講習会は講師主体で進められたため、実施組織からは講習会よりも託児に多くのスタッフを配置している。空間の利用については、講習会は 1 階の講堂を利用し、参加者と講師がテーブルを囲んで話を行うことができるように設営されている。また、託児は講習会の場と階を隔てた 2 階の畳部屋が利用され、午睡用のマットや玩具等を持参して乳幼児の遊び場としていた。

施設 R は実施組織代表が運営組織の母推に所属し、日常的な関わりやイベント時の協力が多くのが特徴で、イベント時に母推が最も多く関わる「クリスマス会」の事例を選定する（図 4-右上）。このイベントは母推と地域交流センターとの合同開催<sup>注6)</sup>で、加えて日頃から関わりが多い良城小図書ボランティアも協力して実施され、スタッフと親子で 70 名近くの参加がみられた。実施場所は吉敷地域交流センター 1 階の講座室で、通常は土足で利用する空間にブルーシートを敷き、長テーブルを設置して参加者の座る場所が確保され、壁際にはツリー等のクリスマスにちなんだ装飾が置かれていた。運営スタッフは組織内からは計 13 名で、そのうち母推は 10 名と最も多く関わり、外部からは良城小図書ボランティア 5 名、地域交流センター職員 3 名の計 8 名が協力している。イベントはパネルシアターやリース製作等を各団体が分担を決めて実施された（写真 b）。

#### 2) 組織内運営型

施設 O は実施組織が 30 名と多く、外部よりも運営組織からの協力が大きく、特にイベント時は多くの参加者を得ていることから、イベント時に運営組織からの協力及び参加者が多い「芋掘り」の事例を選定する（図 4-中央左）。このイベントは組織内スタッフのみで実施され、実施組織 12 名と運営組織内から山口市老人クラブ連合会 11 名が関わり、実施組織代表者が知人から借り受けている農地が利用された。当日までの準備として、老人クラブ連合会メンバーと施設スタッフで芋の苗を植え、1 か月に 1,2 回水やり・草取り・施肥を実施した。イベント当日は農地横のショッピングセンター駐車場を利用し、110 名の参加が可能となっている。イベント時には老人クラブ連合会の会員は参加者が芋を見つけやすいよう芋つる切りや片づけを担当した（写真 c）。実施組織スタッフは、イベント開始前には荷物置き場兼食事スペースの設営や、水入りタンクを利用した仮設の手洗い場の設置等を行い、イベント中には芋掘り後の食事会の準備として、大釜で芋スティックや豚汁作りを行った（写真 d）。

施設 S は実施組織が 41 名と最多で、講習会・イベント時にも組織内から多くのスタッフを確保していることから、「餅つき」の事例を選定する（図 4-中央右）。このイベントでは組織内のみで 20 名のスタッフを確保し、参加者に提供する豚汁等の調理担当と、餅を丸

める担当に分かれて運営がなされた。当初は屋外で実施する予定であったが、雨のため急遽室内で行うこととなった。しかし、拠点が 100 m<sup>2</sup>近い空間を有し、十分な広さが確保されていたため、天候による急な変更にも対応できていた。室内には汚れ防止のためビニールシートを敷き、施設スタッフが蒸した糯米を機械で搗いた後、参加者が順番に搗きたての餅を丸める体験が行われた（写真 e）。その後、西側に配置された長テーブルで豚汁やぜんざいの食事会が行われた。糯米の下準備や餅を搗く機械の扱いに慣れた年配のスタッフが餅つきの準備を行い、スムーズにイベントが進められていた。

#### 3) イベント外部協力型

施設 H はイベントに外部から 10 名以上の協力を得ており、また講習会時に拠点の利用が多く「講習会他施設利用型」との違いもみられたことから、講習会で拠点を利用して実施している「シュークリーム作り」と、イベントで外部協力者が最も多い「インターナショナルランチパーティー」の 2 事例を選定する。まず講習会の「シュークリーム作り」は日頃施設を利用している母親の元パティシエというスキルを生かしたもので、実施組織からは主に託児スタッフを配置している（図 4-左下）。実施場所はできる限り拠点を利用することで施設の認知を目的としており、台所とプレイルーム間の建具撤去や大型遊具等の移動等を行い、講習会のスペースを確保し、託児は畳空間と屋外のウッドデッキを利用している（写真 f, g）。親のみの講習会であるが、講習会と託児の場は明確には区分されておらず、スタッフや親が子どもを見守っている。講習内容については、シュークリームのすべての調理工程を指導するには設備も時間も不十分であるため、拠点でも実施可能な範囲を講師とスタッフが事前に話し合い、調理工程を簡略化することに加え、講師がカスタード制作等の下準備を自宅で行うことで実施が可能となっている。

次にイベントの「インターナショナルランチパーティー」では、外部から国際交流ひらかわ風の会（以下風の会）<sup>注7)</sup>と、その繋がりによる 9 ヶ国からの山口大学外国人留学生の他、イベント時に最も多く関わっているいきいきサロン中村自治会も加わり、延べ 53 名の外部協力が得られている（図 4-右下）。このイベントは、多国籍料理を介して同じ地域に暮らす外国人留学生と子育て中の親子が繋がる場を設けるために実施された。大人数の参加者が見込まれたことと調理の場が必要であったことから、平川地域交流センターの講座室と調理室が利用された。イベントでは、調理は外部協力者のいきいきサロン中村自治会と外国人留学生が担当し、各国の特色を生かした料理を調理室で準備する間、隣接する講座室では風の会が中心となって英語の歌遊び等が行われ、日本と外国の親子の交流が行われた。その後、料理の準備が整うと施設スタッフが食事会場の設営等を行い、バイキング形式の食事会が実施された（写真 h）。

## 5. 結論

本論では山口市の「地域型」子育て支援施設 5 事例を対象に、講習会・イベント時の外部協力者の所属・専門性と実施場所・講習会の内容の関連分析を行った結果、運営体制は建築形態及び実施組織の人数により 3 タイプに区分された。それぞれの特徴を以下に整理する。

1) 「講習会他施設利用型」(K・R) は民家を活用した実施組織が 20 名以下の施設で、講習会の内容は講話や調理・食育、運動等が多



く、調理設備や講座室・講堂等を有す地域施設が利用されており、イベントは拠点の利用が多い。外部協力者は、実施組織に保育士資格保有者が多いKでは教育関係の専門家、母推を中心に組織されたRでは利用施設近隣の住民に協力を得ている。

- 2) 「組織内運営型」(O・S) は実施組織が30名以上の、旧保育園又は地域交流センターに併設された施設で、実施場所は講習会・イベント共に併設施設を含み拠点の利用が多い。運営スタッフは基本的には組織内で確保されており、特にSは活動協力体制が組織化されているため、運営組織と拠点内で講習会・イベントが完結する運営方式である。
- 3) 「イベント外部協力型」(H) は、民家を活用し実施組織が20名以下で構成される点は「講習会他施設利用型」と同様だが、施設認知を目的に講習会は拠点が利用される特徴を持つ。イベントは拠点以外の施設等の利用が多く、特に近隣農地を利用した「農業体験」の実回数が多い。運営スタッフは、イベント時に自治会や大学留学生等、外部協力者が約10名/回と多い点が特徴である。以上より、民家活用型の場合は、調理室や講座室・講堂を有す地域施設を利用することにより、調理や動的活動を含む講習会が可能となる。また、地域交流センターに事務局を置くなど、運営組織と地域施設間の人的ネットワークを構築することで、地域施設の円滑な利用が促されると考えられる。運営体制では、実施組織が30名以上で子育てに係る地域団体が構成される場合は、講習会・イベント時も運営組織内でスタッフの確保が可能となる。一方、実施組織が20名以下の場合でも、運営スタッフや利用者の人的つながりを活用し、近隣から専門技能を持つ外部協力者を確保することにより、多種多様な講習会・イベントの内容が可能となることが示された。

### 謝辞

本研究を進めるにあたり、各ひろばのスタッフ及び利用者の方々には多大なるご協力をいただきました。また本研究は井上愛梨さんが卒業研究として取り組んだ成果をまとめたものです。末尾ながら記して謝意を表します。なお、本研究は日本学術振興会平成25、26年度特別研究員奨励費及び日本学術振興会科学研究費(25289210)の助成を受けたものである。

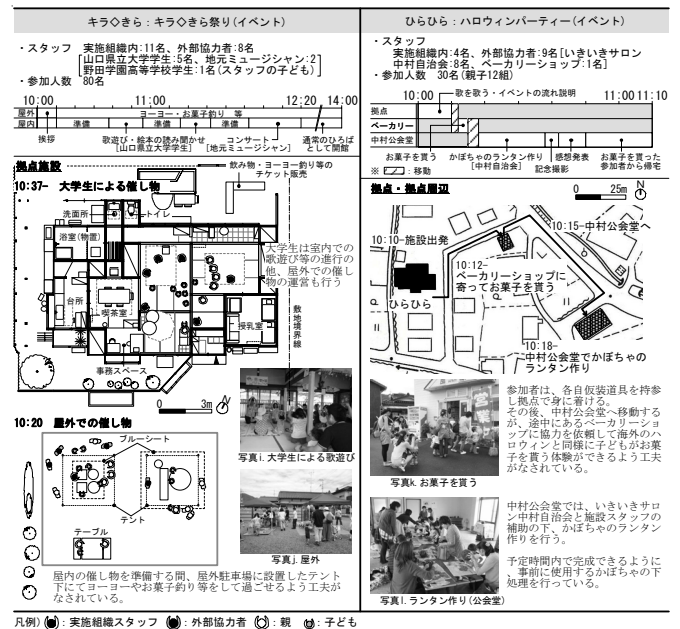
### 注釈

- 1) 「地域子育て支援拠点事業実施要綱」参照
- 2) 施設Oは旧保育園の建物西側を拠点として利用し、建物東側は高齢者生きがセンターとして利用されている。また施設Sは開設当初民家を活用していたが、2012年6月に嘉川地域交流センターが新築されたため、ひろば機能がセンター1階の1室に移設された(図1参照)。
- 3) 参加者に対するアンケート調査は、2013年4月から9月の6ヶ月間を中心に実施したが、本論では省いている。
- 4) 図2は2013年度の運営体制を示し、既報5)調査時と組織構成に変化が見られた施設が存在する。施設Kは当初は代表のみが運営組織に加わっていたが、2013年からは実施組織スタッフ全員が関わることとなった。
- 5) 施設Sでは調理講習時のみ事前に参加者を募集し、その他は通常開館日に時間を設けて実施している。講習会の参加者が他の施設より多く、また講習会とイベントで差がない理由として、通常開館日にも多くの利用があり、その日に実施しているため実施内容に関わらず参加がある。
- 6) 施設Rでは、年3回母推と地域交流センターとの合間で講座・イベントを実施することが取り決められており、地域の広報によって参加者の募集を行うため、施設を利用したことがない子育て世帯に対して施設を知ってもらう機会にもなっている。

7) 施設Hの立地する地区には山口大学があり、外国人留学生も多く在籍しているため、地域住民により「国際交流ひらかわ風の会」が結成され、留学生と地域を繋ぐ活動が行われている。

- 8) 施設K・Hにおいて、運営形態や協力者に特徴のみられたイベントを付図1に示す。施設Kの「キラ◇きら祭り」は、2012年以前は拠点のみで開催されていたが、2013年度からは地域全体のイベントである「アートふる山口(1996年-)」に参加することで、日頃ひろばを利用していない親子や地域住民にも知ってもらう場にもなっている(付図1-左)。外部から日頃から関わりのある山口県立大学学生5名と施設利用者の地元ミュージシャン2名が協力し、大学生が主体となって運営が行われた。場所は拠点の建物内と駐車スペースが利用され、室内で主なイベントを開催し(写真i)、また屋外にはテントを張りヨーヨー釣り等の場を設け、室内イベントを準備する間の一時的な待機場所としても活用されていた(写真j)。

施設Hの「ハロウィンパーティー」は、毎月2回通常開館日に行われている「えいごであそぼ」という取り組みと関係し、外国の行事を体験するという目的により開催された(付図1-右)。スタッフは実施組織4名に加え、外部からはいきいきサロン中村自治会と拠点近くのベーカリーショップの協力を得て実施された。イベントには親子12組が参加し、「近所を回ってお菓子を貰う」という本来のハロウィンを体験するため、拠点から主な実施場所である中村公会堂の間にあるベーカリーショップにてお菓子が配布された(写真k)。中村公会堂ではいきいきサロンメンバーが加わり、実施組織スタッフと共にかぼちゃのランタン作りの補助を行った(写真l)。



付図1 キラ◇きら・ひらひらのイベント

### 参考文献

- 1) 塩崎尚美：子育て講座の意義の検討—子どもに対する視点の変化に注目して—, 日本女子大学紀要, 人間社会学部, 第19号, pp.69-80, 2008
- 2) 吉見昌弘：地域における子育て支援システムに関する研究—地域子育て支援センターの現状と連携・情報システムのあり方について—, 県立女子短期大学研究紀要, 第39号, pp.37-44, 2002
- 3) 加藤智子、田上健一：地域施設と連動した子育て支援ネットワークの構築に関する研究—その2—地域社会における子育て支援ネットワーク構築の可能性—, 日本建築学会九州支部研究報告, 第47号, pp.9-12, 2008.03
- 4) 杉野聖子：子育て支援における地域組織化活動—関係づくりを視点とした「子育て講座」の実践をとおして—, 大妻女子大学人間関係学部紀要, 人間関係学研究, pp.69-84, 2010.12
- 5) 山本幸子、伊藤優里、中園真人：山口市における「地域型つどいの広場設置助成事業」の創設と展開, 日本建築学会計画系論文集, 第77巻, 第675号, pp.1145-1153, 2012.05

[2016年2月3日原稿受理 2016年3月22日採用決定]